

楽しい学び **de**

Vol.04



大滝 文平

クラスをつくる

「社会科見学de主体的に学ぶ姿がアップ！」
手立てがいっぱいです

楽しみにしていたN自動車の工場見学。

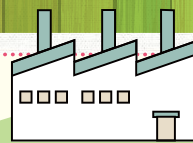
広い敷地の工場内を専用バスに乗って見学開始です。

外から眺めていると、工場の屋根の形が気になります。

「あー、工場の屋根って、よく見るマークのように本当にギザギザなんだ！でも、何でだろう？」

そんな疑問がボンヤリと浮かんでいました。

そこで、見学後の質問タイムで思い切って聞いてみることにしました。



○「社会科見学」で社会科がもっと好きになる！

ここ2～3年できなかった、バスや電車などで行く社会科見学が多くの学校で復活したのではないのでしょうか。改めて、社会科見学は貴重な機会だなと実感しています。見学の際、普段の授業などとは違う、子どもの意外な姿をたくさん発見できます。

「あまりノートを取らないあの子が、一心不乱にメモを取っている！」「あの子が積極的に質問している！」本物と関わったこそその姿でしょう。そんな嬉しい姿を何としても、その後の学びにつなげたいですね。

その社会科見学ですが、単元のどこに位置付いていますか？見学したことはどのように生かされていますか？見学によっては、当初から行き先や行く日も決まっているものもあることでしょう。事前に取材をすることが難しい場合もあります。それでも見学を単元に効果的に生かしたいものです。今号では、社会科見学についての特集です。さて、冒頭のギザギザ工場の話ですが、実は私が5年生の時に行ったN自動車の工場見学での話です。実際に見たからこそ、今でもはっきりと覚えています。ところでギザギザの理由、わかりますか？

日本文教出版のWebサイト

日文



◆ vol.04 は！

社会科見学 de 主体性アップ！
手立てのエッセンスが
いっぱい！



① 社会科見学は学びの宝箱!

体験を通して知る、学ぶ、消防出張所見学

○月△日は、消防出張所への社会科見学でした。消防出張所では、①消防車のしくみ、②火事が起きたとき煙につつまれたら…、③消火器の使い方などについてお話を聞いたり体験したりしながら学びました。身体に安全な煙を使用して、煙につつまれたときの避難方法を体験した際、消防士の方から「今日の煙どんなにおいがした?」と聞かれ、子どもたちは嬉しそうに「チョコレート!」と答えました。そんな子どもたちに消防士さんは、「ということは、みんな煙を吸ってしまっているってことだね。今日の煙は安全だけど、本物の煙は吸ってしまったら命に関わるよ」とお話してくれました。

体験を通して学ぶことで、まちの安全を守るために働いている消防車や消防士の方々のことや、自分の身を守るために大切なことについて、より真剣に、身近に考えることができていたようです。「もしも」のときのために、今回の社会科見学で学んだことを自分の生活につなげてほしいと思います。



上の資料は、ある先生による「学級だより」からの抜粋です。まさに社会科見学の価値が詰まっています。見学や体験、消防士との関わり、子どもたちのワクワク感が伝わってきます。最後に「学んだことを自分の生活につなげてほしい」と書かれています。学習のねらいを意識したステキな単元になったことでしょう。

② 単元に生かすために

1. その社会科見学 どのような価値がありますか

まず、どのような社会科見学があるのでしょうか?

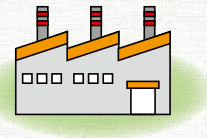
3年 まちたんけん・古民家・消防署・消防団・警察署・地区センター・商店街・スーパーマーケット・交番・まちの工場 など



4年 ごみ処理場・再生工場・浄水場・下水処理場・防災センター・市内や県内の特徴ある地域 など



5年 稲作体験・漁港・機械工業などの工場・テレビ局・新聞社(情報)・林業体験 など



6年 国会議事堂・裁判所・歴史博物館・国際交流施設 など



見学が可能な場所は、ほかにも様々あることでしょう。学校から近いところにある施設もあれば、事前に予約をして、各種の公共交通機関を使って行く施設もあります。

さて、上記の見学場所からも、学年が上がるにつれて学校から離れた場所になっているのがわかります(もちろん、地域や実態によって違いはありますが)。その分、予約制であったり、事前の取材が難しかったりすると思います。しかし、より社会とつながっているという思いを子どもが感じることができるのではないのでしょうか。

一方で、比較的、近い見学の場所は、繰り返し訪問できたり、事前の取材もしやすかったりします。放課後や休日に「取材してきたよ!」という、嬉しい子どもの声が聞こえてくることもありますね。

大切なのは、その見学を通して「子どもが、何を見て、何を感じて、どのような反応をするか」です。子どもたちの姿を想像しながら、取材や下調べをすることです。そこから単元の位置付けが見えてきます。

2. 社会科見学を単元に位置付ける!

① 単元の導入に位置付ける
～子どもの「?」から学習問題をつくる～

「うわー、たくさんの商品が並んでいるね」
「最初に果物や野菜のコーナーがあるよ」
「牛乳やお肉は従業員の方が出入りする作業ヤードの近くにあるよ。何か理由があるのかな」
スーパーマーケット見学の1コマです。みんなで見たからこそ、見えてくるステキな気付きですね。



このように、子どもが実際に見た気付きが全体に共有されて、「みんなの問題(学習問題)」が作り上げられます。さらに、見学をしたことや生活経験をもとに話し合うことを通して、再検証(実際にもう一度見学に行ったり、電話取材などをしたりする)することもできます。

こうした子どもの気付きを見取るために、「見学カード」を使うことをおすすめします。私は「お・か・しカード」と名付けたシンプルなカードを用意しています。

「お」…思ったこと
「か」…考え
「し」…調べ方

見学をしているときや、学校に戻ってからの振り返りで書くようにしています。

子どもが、何をみて、何を考えているか、そしてどのような「学習問題」をつくることができるか、単元の構想につながります。



② 単元の中盤や後半で位置付ける
～学習問題の検証「深い」学びへ～

「実際に寄木細工を自分たちでつくってみて、どうしても鉋をかける作業が難しい」
「〇〇さん(職人さんの名前)は、一人前になるまで最低でも10年かかるとインタビュービ

デオで言っていた」
「そこまで苦労もあったはず。でも伝統を守る大切さを感じて続けてきているのかな」

このように、自分たちでの体験活動や調べ学習を通して、職人の方々への思いに迫ります。こうした学習活動を通して、実際に会うことができたときの喜びや、学びの深さは、社会科見学の醍醐味です。

「〇〇さん、昭和〇〇年の時、跡を継ぐことに迷いはなかったのですか」など、具体的に〇〇さんの生き方に迫る質問が見られたことを覚えていてほしい。

学習問題の研究場面(問題解決的な学び)に位置付けることで、新たな問題(さらに考えたい問題)が作り上げられます。子どもの主体性は、さらに高まっています。

3. 見学先の方と丁寧な交渉を!

事前に見学先と打ち合わせができる場合は、学習のねらいや、話してほしいこと、子どもに考えてほしいから言わないでもらいたいことなど、丁寧に伝えておくといよいでしょう。教師にとっても、コミュニケーション力を高めたり、より社会的な見方が広がったりすることにつながると実感しています。効果的に社会科見学を取り入れることで、子どもが社会とつながる豊かな学びを実践してほしいと願います。



取材を通して、教師自身も社会的な見方・考え方を鍛えましょう!

ところで、工場屋根のギザギザですが、理由はいたってシンプルです。太陽の光を多く入れて工場を明るくするためです。垂直の壁側は一面が窓ガラスになっています。「とても良い質問ですね」と工場の方に褒められました。社会科が好きになったよい思い出です。



さて、次ページからは、社会科見学を効果的に取り入れた実践を紹介します。

社会科見学を生かした学習をつくらう！



今回のポイント！
社会科見学を活用して
子どもたちの学習を深めよう！

6年生 6月中旬～7月実施

単元名 「大昔の暮らしをさぐるう」

〈実践者〉横浜市立港南台第三小学校 山本 雅也

Scene 1 社会科見学の日時が決まった

「今年度の歴史博物館の見学は〇月△日に決まりました」

予約をしていた施設から、見学日程の決定連絡が来ました。この



ように、社会科見学の日程が事前に決まっているケースが多いのではないのでしょうか。ではなぜ、社会科見学に行くのか、改めて考えてみましょう。

「歴史学習を始める前に博物館の見学に行って歴史への関心を高めたい」「博物館の展示を見ることで、実際の大きさを体感させたい」など、ねらいをもって見学に行くと思います。

しかし、これでは学習とのつながりが薄く、どの社会科見学でも同じめあてになり、見学に行くことそれ自体が目的になってしまいます。

そこで今回は、社会科見学を通して、学習を深める手立てについて紹介します。

Scene 2 社会科見学の目的は…

社会科見学の目的として、いくつかの見学の仕方があると考えています。

- ① 単元の前半：子どもたちの疑問を生む。
- ② 単元の中盤：問題の解決をする。
- ③ 単元の後半：選択・判断する。

このように、単元のどの場面で社会科見学を位置付けるのか、それによって、見学の目的が変わってくるのではないのでしょうか。

社会科見学を学習に生かすためのポイント①

社会科見学のめあてを明確にし、単元のどこに位置付けるかを考えよう。

Scene 3 さあ取材だ、連絡をとろう

社会科見学を単元に有効に位置付けるためには、学習計画を考える必要があります。それでは、どのようにすればよいのでしょうか。

本校が見学する歴史博物館では、授業の相談に乗ってくれたり、埋蔵文化財の訪問授業をしてくれたりします。事前に連絡をとることで、単元づくりや、授業づくりのヒントをもらうことができます。

また、社会科見学の際には、事前の取材をしたり、実際に下見に行ったりすることがだいじになります。博物館では、どのようなものを見せてもらえるのか、どのような工夫をしているのかをはじめ、どのような取り組みをしているかなどを聞いておくことも、めあてを明確にすることに繋がります。



社会科見学を学習に生かすためのポイント②

見学先の取材や下見をして、情報を集めよう。

Scene 4 単元の計画を考えよう

実際の取材を通して、以下のようなことが見えてきました。

- ・わたしたちのまちには遺跡群があり、縄文時代の遺跡が残っていること。
- ・埋蔵文化財の訪問授業では、本物の土器や石斧などを触れることができること。
- ・歴史博物館には遺跡が隣接している。この遺跡は弥生時代の環濠集落で、柵や堀を実際に見たり、復元された竪穴住居に入ったりできること。

このように、取材してわかったことをもとに、歴史単元の学習をこれからスタートする子どもたちが、主体的に取り組めて、さらに学習を深めていける単元を構想することにしました。今回は「②単元の中盤」を選びました。

Scene 5-1 身近なことから学習をスタート

休み時間や帰りの支度をしている時などに、子どもたちと学習のことについて話す機会を大切にしています。

T：「わたしたちのまちには、いつから人がいたか知っている？」

C1：「団地ができてたくさんの方が住むようになったんだよね」

C2：「団地ができる前のことは全然知らない」

C3：「昔は山だったって3年生の時に学習したから、人なんて全然いなかったんじゃないかな」



単元に入る前に子どもたちとこのような会話をしました。子どもたちが、自分たちのまちに遺跡群があるという事実を知ることにより、歴史学習への思いが高まるのでは、と感じました。

C4：「わたしたちのまちに縄文時代の遺跡があるなんて知らなかった」

C5：「行ったことあるお店の下に遺跡があったなんてびっくりした」

C6：「縄文時代の人たちがどんな暮らしをしていたのか調べたくなった」

この導入は、博物館への事前取材で実現したものです。子どもたちは、自分たちが住んでいるまちに縄文時代から人がいたことに驚くとともに、まちの見方が変わったとも言っていました。

社会科見学を学習に生かすためのポイント③

自分たちの住んでいるまちの歴史に触れることで、歴史学習への意欲を高めよう。

Scene 5-2 体験を学習の中に取り入れよう

学習を進めていくと、「縄文時代は、矢じりや釣り針を作って狩りや漁に行ったり、土器を作って煮炊きしたりして生活をしていました」

と、子どもたちが調べたことを発言してくれることがあります。

しかし、調べたことだけだと、大きさや重さなどはわからず、実感を伴った理解ができるとよいのではないかと考えていました。

そこで、埋蔵文化財の訪問授業を行い、博物館の方に実際の土器や矢じりなど出土品を持ってきていただき、実際に見たり触ったりする活動を行いました。

C7：「矢じりってこんなにも小さいんだね」

C8：「本当にこれで狩りができるのかな」

C9：「縄文土器って、思っていたよりも重たいんだね」



など、実物を見たり触ったりする体験から、感想を話したり、ゲストティーチャーにたくさん質問したりする様子が見られました。

社会科見学を学習に生かすためのポイント④

実物を見たり触ったりする体験を取り入れ、感想や疑問を引き出そう。

Scene 5-3 社会科見学の目的が見えてきた

学習が進み、縄文時代と弥生時代の暮らしについてのイラストを見ながら比較しました。

どうして、むらの周りを柵や堀で囲む必要があったのかな？

という疑問の声が多く上がります。

「縄文時代には（柵が）なくて、弥生時代に柵があるのは理由があるはず」

「敵が現れた。でもなぜ？」

ステキなつぶやきや発言が続きます。

そこで、今回の社会科見学では、博物館に隣接する「遺跡」の見学を中心に位置付けました。見学への気持ちが高まります。



Scene 6 いよいよ見学

～見学で広がる主体性の輪！～

- 遺跡見学の当日です。子どもたちは、
 C10:「柵が高くて登るのは大変そう」
 C11:「高い柵に囲まれていて、普段の生活で周りの様子がわからないから、心配だな」
 C12:「見張りの人を置かないと村の外の様子がわからないね」
 C13:「むらの人たちを守るためには、このようにしないとイケなかったんだね」

こうした声は、実際に見たからこそ感じる子どもたちの声そのものです。



- また、博物館でも、
 C14:「弥生時代になって縄文時代と大きく変わったところはどんなところですか」
 C15:「弥生時代の米は、今の米と作り方はちがうのですか」

など、積極的にたくさん質問をしていました。子どもの主体性あふれる嬉しい姿です。

社会科見学を学習に生かすためのポイント⑤

問題意識をもって見学に行くことで、主体的で充実した見学にしよう。

Scene 7 見学してわかったことを話し合おう

～さらに広がる主体性の輪！～

社会科見学の後、見学を通してわかったことや、調べたことなどをもとにして話し合いを行いました。

授業の最初は、実際に見たことをもとに、感想を出し合いました。話し合いを続けるうちに、次第に、当初の見学の目的であった、学習問題に迫る考えが話し合われました。

どうして、むらの周りを柵や堀で囲む必要があったのだろう。

柵を作ったのは、人々の争いが起きたからだという考えをもとにして、**見学で見えてきた稲作と関連付けて考えている子がいます。**

また、稲作が始まったことで、安定して食料が得られるようになって人口が増えたこと。そ

の一方で、稲作に必要な土地や水をめぐって戦いが起きたことなどの意見が出されました。

見学を通して、子どもたちが自分の考えをさらに深めただけでなく、事象を多角的にみつめた考えも出されてきました。これこそ、学びの深まりを感じた瞬間でした。



社会科見学を学習に生かすためのポイント⑥

見学してわかったことを中心に話し合うことで、子どもたちの学習を深めよう。

番外編 例え見学に行けなくても…動画も活用できる

今回の実践（歴史学習の導入時）は、どの学校でも、学習する時期が同じようになりがちです。それならば指導計画を変えて実践しよう、としても、なかなか変更は難しいものです。加えて、見学先の施設によっては定員が決められている、学校によっては見学それ自体に取り組めないこともあります。

ただ、施設によっては、オンラインによる見学を実施していたり、動画をホームページに掲載したりしているところもあります。

実際に見学ができなくても、いつどのように子どもが動画を視聴するか、単元の見通しをもって、子どもの問題意識に合わせて、視聴を位置付けることで効果的な活用につながります。



新コーナー

「愛のチョークで引田が斬る！」

(横浜市立中山小学校・引田雄士)

実践者に鋭くインタビュー！実践時の本音を聞き出す「深掘りの引田！」



というわけで、拙者は浪人侍・引田雄士でござる。「大昔の暮らしをさぐる」の実践者山本氏にズバズバと斬り込んでいくので、よろしゅうお願いいたしやす！今回の山本実践、子どもと学習をつくる時に社会科見学をどのように単元の中に位置付けたのか、そのねらいは明確であった。事前の取材や子どもとの会話が単元構想の鍵になっていること、拙者も学ばせてもらった。では、お尋ね申す！

シャキーン！「山本氏、社会科見学で失敗したことがあるのではないかな？」

3年生のスーパーマーケットの見学でのことです。子どもたちは気になったことを一生懸命メモしていました。店員さんに話を聞いている子どももいて、見学は成功だと思いました。学校に戻り、見学をしてわかったことを出し合ったときのことで。スーパーマーケットの工夫について視点が多岐にわたり、見つけた工夫について共感できず、発表会のようになっていました。見学前に**クラス全体で見学の視点を明確にしていなかったのが原因**でした。結局、一人ひとりが見つけた工夫を確かめるために、スーパーマーケットに見学をお願いして、2度目の見学に行きました。



山本氏でもこんな失敗があったとは、よくぞ語ってくれた。なるほど、社会科見学は視点をもつことがとても大事であり、視点が明確になると、子どもの見学する姿はより主体性が表れるということだな。山本氏、子どもの姿を見て自らの失敗に気づき、もう一度見学に行くところが泣かせるね～。

みんなで楽しく学ぼう！先生たちの勉強の場(今年で7年目)紹介！ 社会科を中心とした、子どもが主役の学びを創造し合う場。それが「北学場(きたまなば)」



横浜市北部(青葉区、都筑区、緑区、港北区)の社会科有志が中心となって発足した、緩やかなお勉強の場です。発足して7年目になりますが、今では横浜市内・市外の初任者を初め、経験の浅い先生、中堅・ベテランの先生、管理職やOBの先生などなど、あらゆる立場の先生方がフラットな関係で、ざっくばらんに語り合っています。ご興味ございましたら、連絡(メール)をいただくと案内チラシを送らせていただきます。

私と北学場(参加者の声より)

他校の先生方と授業や学級経営、子どもとの関わり等の悩みや失敗談を共有できる温かい場所です。社会科の授業づくりのヒントを得たいと思って参加したのがきっかけでした。「子どもが主体的になるには」「単元の中でどこに社会科見学を位置付けると効果的か」といった話を、フラットな立場で話し合いができる雰囲気がとても楽しく、勉強になりますし、深く考えさせられます。



参加費無料!

遅刻・早退OK! 事前申し込みも不要!

北学場
〈連絡先〉大滝 文平
bunpei_o@yahoo.co.jp

社会科見学に関する質問にお答えします！



YUKIKOの部屋

check point!



Q 社会科見学の目的は何ですか？

A 実際に見たり話を聞いたりできるので、子どもたちが興味をもって学びます。自分が知らなかった世の中のことを知ることができることは、子どもはもちろん、大人もワクワクしますね。

Q 見学を実施する際に心がけていることはありますか？

A 校外に出かけるので、安全面や公共のマナーなど、守るべきものがあります。子どもたちの命にも関わることなので、活動内容はもちろん、持ち物や時程、経路などを事前にしっかり確認しています。

Q 安全面のほかに大事にすることはありますか？

A 単元のどこに位置付けるのか、どのような目的や問いをもっていくのかで、見学時の子どもたちの行動が変わると思います。まずは、見学前に子どもたちが問題意識をもって見学に行けるようにしておくことが大切です。子どもたち自身が問いを調べたいという思いをもっていると、自ら学び出します。見学前に友達に自分の考えを話す子。見学中に黙ってじっくり見て考える子。施設の方の話を聞いて疑問に思ったことを質問する子。学校や家に戻るとすぐに見学のまとめに取り組む子。社会科見学を通して、このような子どもたちの姿をたくさん見取るようにしています。みなさんも、社会科見学で子どもたちの輝く姿をいっぱい見つけてみてください！

(横浜市立本牧小学校 武藤 由希子)

「楽しい学び de クラスをつくる」では、
みなさんからの質問をお待ちしています！
(連絡先: 北学場) bunpei_o@yahoo.co.jp

※本冊子に掲載しているイラストはすべてイメージです。

楽しい学び de クラスをつくる (vol.04)

日文教授用資料
令和5年(2023年)12月25日発行

編集・発行人 佐々木 秀樹

日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL: 06-6692-1261
FAX: 06-6606-5171

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33709

日本文教出版株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL: 06-6692-1261 FAX: 06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井 1-2-16
TEL: 03-3389-4611 FAX: 03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院 3-11-14
TEL: 092-531-7696 FAX: 092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市中区葵 1-13-18-7F-B
TEL: 052-979-7260 FAX: 052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似 9-12-1-1
TEL: 011-764-1201 FAX: 011-764-0690